

日銀支店長が語る

経済よもやま話

第4回 そうだ！東北に行こう！



日本銀行仙台支店長 岡山 和裕

地域や企業の歴史

私は仕事柄、東北地方の色々な場所に行っ、様々な方からお話を伺うことが多い。その趣旨は、経済や金融の状況について把握するためののだが、どうしても先に地域の歴史、風土、観光地、食べ物について伺ってしまう。

そうすると、ほとんどの方から「良くぞ、聞いていただきました！」という感じで、様々なことを教えていただける。

その中でも、やはり面白いのはその地域の歴史。明治時代、江戸時代、戦国時代だけでなく古墳時代まで遡って話していただけることがあり、さらに面白いエピソードをあわせてご説明いただくことが多く、ますます知りたいことが増えてくる。

その後、本来の訪問主旨である最近の受注、売上、収益、設備投資、雇用についてのお話を伺わせていただく流れになるのだが、今の経営状況は、実はその会社の過去からの流れがあることが分かることが多く、はたまたその地域の歴史と密接に関係していることに気づくことがある。

さて、最近、全国新酒鑑評会で、山形県が20個の金賞を獲得して、全国一になったとの報に接した。さらに、報道によると、山形県では酒蔵同士でお互いに手法などを教えあったり、気づいたことを指摘しあったりしていると聞いた。「自助・公助・共助」が大切だと聞かすが、これこそ「共助」ということではないか。

また、東北地方は、創業100年を超える企業の数も多いという話も聞いた。

これこそ、現在は歴史の積み重ねの上にあるということではないか。もちろん、新しいニーズを捉えて、スタートアップ企業を立ち上げることも大事だ。一方、経営を長く続けておられる企業は、

経営体が変わっていないだけで、実は世の中の新しいニーズを捉えて、事業の範囲を拡大されている先もあるほか、創業当時から大きく事業を変えている先もある。

こうしたことを考えると、以前、ある経営者の方が「経営者は、歴史、哲学、脳科学を知っておく必要があるのだよ」と仰っていたことに合点がいった。

そういう面で、東北地方を見てみると、魅力的な歴史が存在する。そして、その歴史が今に繋がっている。

東北探訪

ところで、東北地方出身の方々に「〇〇に行かれたことはありますか？」とお伺いすると、「実はまだ行ったことがないのですよ」との回答が返ってくることもある。また、転勤族の方が様々な場所を巡っているということも聞くこともある。これは、転勤族の場合、期間の長短はあるが、いずれ任地を離れないといけなからだろう。

また、東北地方を観光する人は東北地方の人が7割だということも聞いた。そうすると、インバウンド客はもちろんのこと、同じ東北地方の人に魅力を分かってもらう必要があるということではないか。

そこで思ったことは「そうだ！東北に行こう！」ということ。様々な場所にお伺いしたいと思っている。

岡山 和裕氏 プロフィール

1969年（昭和44年）生まれ
兵庫県出身。本店15部署のうち8部署を経験したオールラウンダー。東日本大震災では、金融機構局で被災金融機関との連携役を担ったほか、熊本地震では決済機構局業務継続企画課長として現場を指揮。前橋支店長、業務局参事役等を経て、仙台支店長に就任